

## 土庇の設定方法

文書管理番号：1109-01

### Q. 質問

一部の屋根のみ、垂木や桁が見える表現の屋根にしたい。

### A. 回答




玄関ポーチの庇など、一部の屋根のみ垂木や桁を表示させたい場合、屋根伏図で土庇を配置します。

土庇は屋根面や庇とは異なり、桁や垂木のサイズ、部材の配置間隔が指定できます。

ここでは、下のような玄関ポーチの庇を、土庇を利用して入力する手順を説明します。



## 操作手順

- ①  (屋根伏図)を起動
- ②  (面作成)の  (土庇)をクリック
  - \* ツールバーの「配置」⇒「面作成」⇒「土庇」を選択してもかまいません。
  - \* 土庇の設定画面が表示されます。
- ③ 化粧桁・化粧垂木のサイズ、ピッチを設定し、「OK」をクリック



\* ここでは以下のサイズに設定します。

■ 化粧桁

幅 90mm  
高さ 90mm  
ピッチ 455mm

■ 化粧垂木

幅 45mm  
高さ 60mm  
ピッチ 303mm

### 【参考】

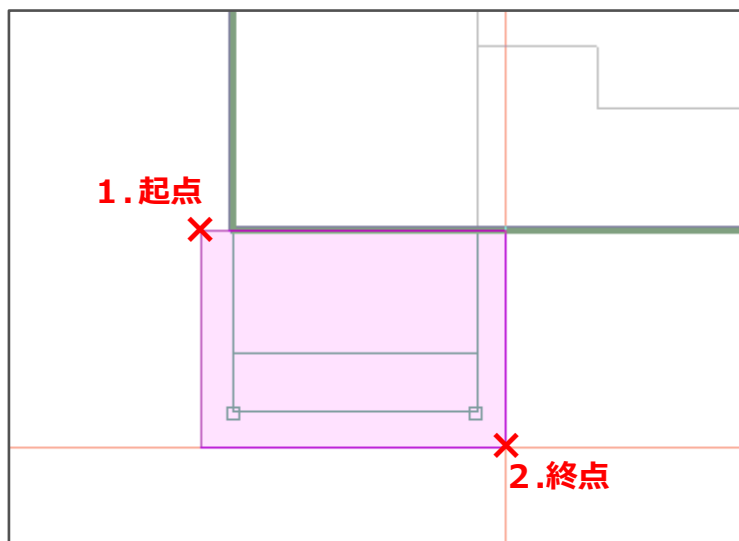
化粧桁は、面設定時の基準点（矢印の先端位置）を配置基準として配置されます。

化粧垂木は、地回り範囲線（外郭線）を配置基準として配置されます。

詳しい内容は、こちらをご覧ください。

[\[1110\] 桁・垂木の配置基準位置【土庇・作成条件】](#)

- ④ (矩形配置) を選択し、起点—終点で土庇の面を作成



\* 緑色に塗りつぶされた土庇の面が作成されます。

- ⑤ (面設定) の (面設定) をクリック

- \* ツールバーの「配置」⇒「面設定」⇒「面設定」を選択してもかまいません。
- \* 面設定の画面が表示されます。

- ⑥ 勾配や屋根属性を設定し、「OK」をクリック

- \* ここでは、1階の軒高から 500mm 下げた位置に配置しますので、軒基準を「-500」、勾配を「20」に設定します。

**面設定**

GL基準  mm

**軒基準**  mm

勾配  /100

---

和瓦, 132, 252

屋根属性  軒先厚  mm

屋根厚 (A+B+C+D)  mm

A: 仕上厚  mm

B: 野地板厚  mm

C: 他下地厚合計  mm

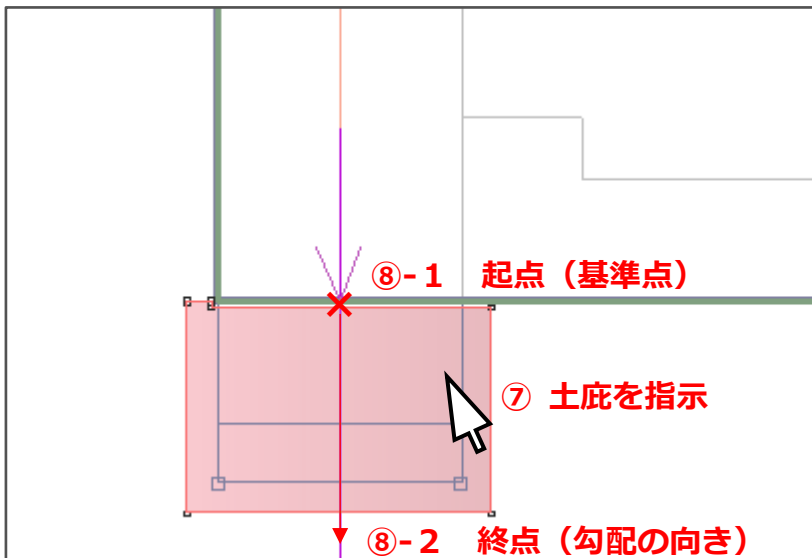
D: 垂木高さ  mm

大屋根  屋根面をすべて変更します。

⑦ 土庇の面を指示

\* 指示した屋根面が赤くなります。

⑧ 基準点の位置をクリックし、勾配向きを指定






\* 矢印の先端の位置が、面設定で設定した高さ（1階軒高から500mm下がる位置）になります。


⑨ 3D パースで確認



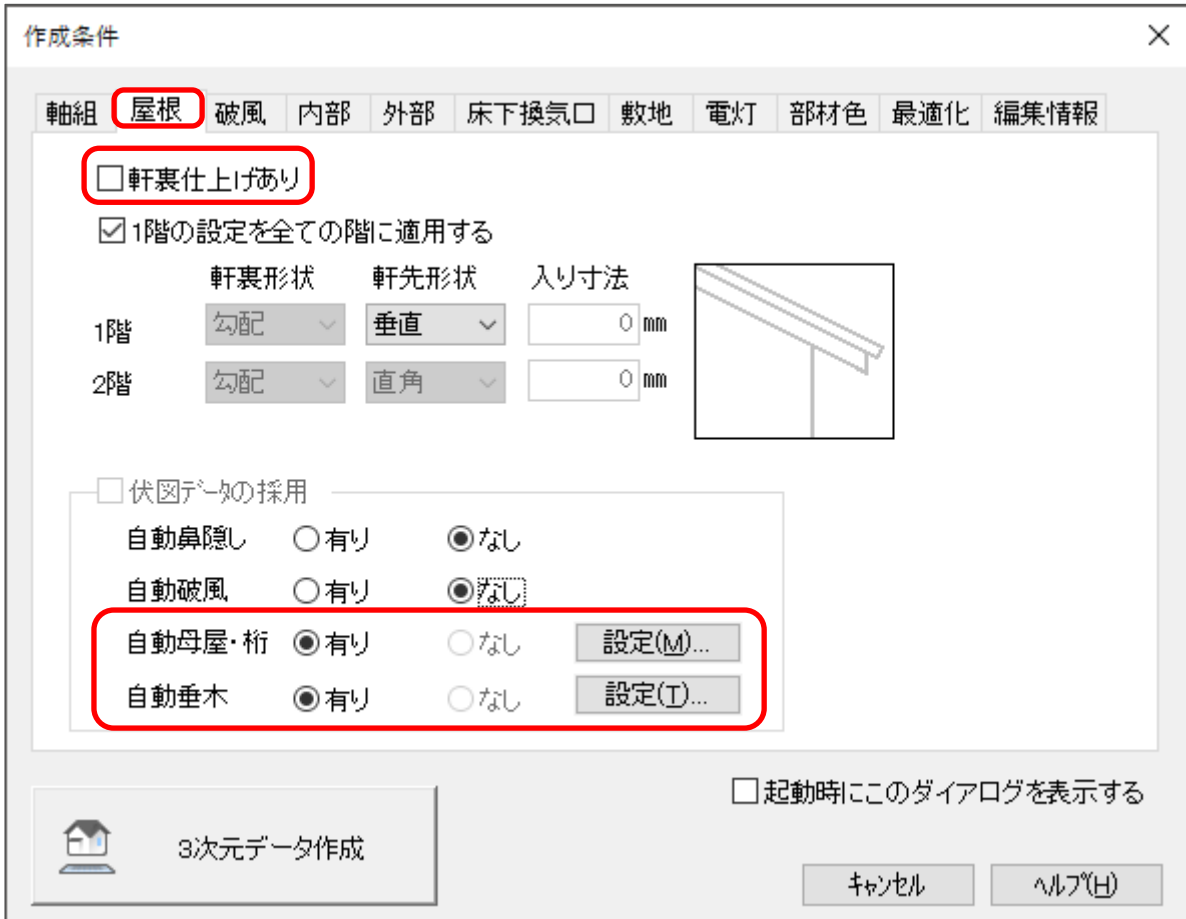
\* 玄関ポーチの庇に、垂木や桁が表示されます。

## 参考

 (3D パース)や  (カラー立面)、 (立面図)では、屋根面に母屋・桁や垂木を自動で表示させることができます。

 (作成条件)の「屋根」タブにある「軒裏仕上げあり」のチェックを外し、「自動母屋・桁」「自動垂木」を「有り」にします。

母屋・桁、垂木のサイズやピッチについては、それぞれの「設定」から指定ができます。



作成条件

軸組 **屋根** 破風 内部 外部 床下換気口 敷地 電灯 部材色 最適化 編集情報

軒裏仕上げあり

1階の設定を全ての階に適用する

	軒裏形状	軒先形状	入り寸法
1階	勾配	垂直	0 mm
2階	勾配	直角	0 mm

伏図データの採用

自動鼻隠し	<input type="radio"/> 有り	<input checked="" type="radio"/> なし	
自動破風	<input type="radio"/> 有り	<input checked="" type="radio"/> なし	
自動母屋・桁	<input checked="" type="radio"/> 有り	<input type="radio"/> なし	設定(M)...
自動垂木	<input checked="" type="radio"/> 有り	<input type="radio"/> なし	設定(T)...

起動時にこのダイアログを表示する

3次元データ作成

キャンセル ヘルプ(H)

- \* 軒裏仕上げの有無、自動部材（鼻隠し、破風、母屋・桁、垂木）の設定は、全階層の屋根面に適用されます。



\* 玄関ポーチの庇は土庇で設定、2階の屋根面は作成条件で設定した例です。

#### 【参考】

自動母屋・桁は、外郭線を配置基準として配置されます。

自動垂木は、屋根を正面にして右側にある外郭線を配置基準として配置されます。

詳しい内容は、こちらをご覧ください。

[\[1110\] 桁・垂木の配置基準位置【土庇・作成条件】](#)